

公益財団法人サントリー芸術財団 サントリー美術館 107-8643 東京都港区赤坂 9-7-4東京ミッドタウンガーデンサイド Tel: 03-3479-8604 Fax: 03-3479-8644

No. sma0056

(2022.3.31)

サントリー美術館 「歌枕 あなたの知らない心の風景」開催

会期:2022年6月29日(水)~8月28日(日)





吉野龍田図 六曲一双 江戸時代 17世紀 根津美術館

サントリー美術館(東京・六本木/館長:鳥井信吾)は、2022年6月29日 (水)から8月28日(日)まで「歌枕 あなたの知らない心の風景」を開催いたします。

古来、日本人にとって形のない感動や感情を、形のあるものとして表わす手段が 和歌でありました。自らの思いを移り変わる自然やさまざまな物事に託し、その 心を歌に表わしていたのです。ゆえに日本人は美しい風景を詠わずにはいられません でした。

そうして繰り返し和歌に詠まれた土地には次第に特定のイメージが定着し、歌人の間で広く共有されていきました。そして、ついには実際の風景を知らなくとも、 その土地のイメージを通して、自らの思いを表わすことができるまでになるのです。 このように和歌によって特定のイメージが結びつけられた土地、それが今日に言う「歌枕」です。

こうして言わば日本人の心の風景となった歌枕は、その後美術とも深い関わりを もって展開します。実景以上に歌枕の詩的なイメージで描かれてきた名所絵や、 歌枕の意匠で飾られたさまざまな工芸品などからは、歌枕が日本美術の内容を実に 豊かにしてきたものである事に気づかされます。

しかし、和歌や古典が生活の中に根付いていない現代を生きる私たちにとって、 歌枕はもはや共感することが難しいのではないでしょうか。この展覧会では、かつて は誰もが思い浮かべることのできた日本人の心の風景、歌枕の世界をご紹介し、 日本美術に込められたさまざまな思いを再び皆さまと共有することを試みます。

《 展示構成 》

第一章: 歌枕の世界





武蔵野図屛風 六曲一双 江戸時代 17世紀 サントリー美術館

日本美術では、しばしば桜と楓を描く作品を、古くからの名所である「吉野」と「龍田」を描いたものとして説明しています。同様に「薄の生い茂る原野に月が沈む光景は「武蔵野」、川にかかる橋と柳・水車の組み合わせは「宇治」などとされています。いずれの場合も、写真や写実的な風景画を見慣れた目からすると、特定の場所を描いたにしては象徴的な表現であることに戸惑いを覚えるかもしれません。しかし、長らく日本の名所は目に見える実景以上に、和歌の詩的なイメージによって表わされる伝統があったのです。そして、そのイメージの源泉となっていたものこそが「歌枕」でありました。

歌枕とは、長い和歌の歴史の中で培われた、特定のイメージをともなう土地や 地名です。かつての日本では、そのイメージ世界を表わすことが、あらゆる芸術での 基本的な約束事にまでなっていたのです。本章ではそうした歌枕の世界を大画面の 屛風絵によって体感していただきます。

【主な出品作品】

・吉野龍田図 六曲一双 江戸時代 17世紀 根津美術館

・武蔵野図屛風 六曲一双 江戸時代 17世紀 サントリー美術館
・柳橋水車図屛風 六曲一双 江戸時代 17世紀 京都国立博物館
・宇津の山図 山本探川 二曲一隻 江戸時代 18世紀 静岡県立美術館

第二章: 歌枕の成立



重要文化財 寸松庵色紙「ちはやふる」 伝 紀貫之 一幅 平安時代 11世紀 京都国立博物館

「歌枕」は、古くは和歌に使用される言葉全体を指し、地名はその一分野に過ぎませんでした。しかしその後、それらの地名は繰り返し詠み継がれることで特定のイメージが定着し、自らの思いを表わすための重要な言葉や技法として、歌人の間で広く共有されるようになります。そうして歌枕は、平安時代末ごろには「和歌によって特定のイメージが結びつけられた地名」の意味に限定されるようになりました。このように、歌枕は実在の景勝地というよりも、歌人の間で共有された心の風景という側面が強く、和歌の中にだけ存在した想像上の名所とも言えるものでした。そこで歌枕の重要な典拠とされたのが『古今和歌集』などの勅撰集です。勅撰集は天皇の命で編纂される公的な和歌集であることから、その中で詠まれた土地が歌枕として特に重視されていくのです。

この章ではこうした歌枕の歴史を、まさに歌枕が成立していく過程にあった平安 時代の古筆を通して概観します。

・重要文化財 寸松庵色紙「ちはやふる」 伝 紀貫之 一幅

平安時代 11世紀 京都国立博物館

・関戸本古今和歌集切「みちのくうた」 伝藤原行成 一幅

平安時代 11世紀 東京国立博物館

・鳥丸切 伝 藤原定頼 一幅 平安時代 12世紀 根津美術館 ・唐紙拾遺抄切 伝 藤原公任 一幅 平安時代 12世紀 五島美術館

·中院切 伝 源実朝 一幅 平安時代 12世紀 書芸文化院

第三章:描かれた歌枕



鏡山図 伝 姉小路長隆画 伝 藤原家隆賛 一幅 鎌倉時代 13~14世紀 根津美術館



大和名所図画帖より和歌の浦 狩野栄信・狩野養信 一帖 江戸時代 19世紀 京都国立博物館

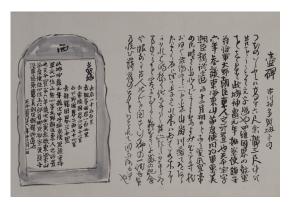
本来、和歌を詠むための地名であった歌枕ですが、早くから美術と深く関わりながら展開していきました。特に注目されるのは、日本における名所絵の歴史が、歌枕を描いた平安時代のやまと絵に始まるとされていることでしょう。

平安時代初期の10世紀、屛風絵に対して和歌を詠む「屛風歌」が流行し、名所を描いた屛風にも和歌が詠まれるようになりました。当時の作例は現存しませんが、実景を描いた風景画というよりも、歌枕のイメージ世界が散りばめられた景物画であったとみられています。そして鑑賞者は、屛風に添えられた和歌によって絵の内容を補いつつ、さまざまなストーリーを想像することを楽しんでいたのです。

屛風歌の流行は11世紀には終わりを迎えますが、風景ではなく、その土地を 象徴する景物で表わされる歌枕と絵画の関係は、時代が変わっても何らかの形で 意識され続けました。本章ではそうした名所絵の伝統に根ざして描かれた歌枕を 中心にご覧いただきます。

- ・鏡山図 伝 姉 小路長隆画 伝 藤原家隆賛 一幅
 - 鎌倉時代 13~14世紀 根津美術館
- ・順徳院御製名所和歌二十首図巻 狩野探信守政 二巻
 - 江戸時代 18世紀 大阪青山歴史文学博物館
- ・清涼殿名所絵下絵 土佐光貞・土佐光時・土佐光孚 一巻
 - 江戸時代 18世紀 京都市立芸術大学芸術資料館
- ・萩の玉川図 葛飾北斎 一幅 江戸時代 18~19世紀 板橋区立美術館
- ・大和名所図画帖 狩野栄信・狩野養信 一帖 江戸時代 19世紀 京都国立博物館

第四章:旅と歌枕



重要文化財 奥之細道図(部分) 与謝蕪村 二巻のうち上巻 安永7年(1778) 京都国立博物館

歌枕は、そのイメージや知識によって「居ながらにして名所を知る」ことができたため、実際の風景を見なくても和歌を詠むことができるものでした。しかし、それはむしろ現地への憧れを強めることにもなり、歌枕への旅を行う人々が現れます。なかでも西行法師の旅は後世の歌人に大きな影響力を与え、西行の旅を追体験することがたびたび試みられました。かの松尾芭蕉の「奥の細道」も、そうした西行を偲ぶ歌枕への旅のひとつだったとみられています。

一方で、実際に旅に出ることが難しい人々にとっても、歌枕は疑似的な旅を体験することを可能にするものでした。歌枕のイメージ世界を江戸時代の風俗に置き換えた浮世絵や、歌枕の景観を模した庭園などを通して、過去と現在をつなぐ「居ながらにして名所を知る」旅を楽しむことができたのです。本章では、このように日本人の旅の原動力として、切っても切れないものとなった旅と歌枕の関係をご覧いただきます。

- ・西行法師行状絵巻 四巻のうち巻二・巻三 江戸時代 17世紀 慶應義塾(センチュリー赤尾コレクション)
- ・一遍上人縁起絵 十巻のうち巻第二・巻第八 江戸時代 17世紀 清浄光寺(遊行寺)
- ・重要文化財 奥之細道図 与謝蕪村 二巻のうち上巻安永7年(1778) 京都国立博物館
- · 六義園図 符野常信· 狩野周信· 狩野岑信 三巻 宝永元年(1704)頃 公益財団法人郡山城史跡· 柳沢文庫保存会
- ・百人一首之内(在原行平・在原業平・権中納言定頼・源俊頼) 歌川国芳 大判錦絵 天保9年(1838) 跡見学園女子大学図書館

第五章:暮らしに息づく歌枕



重要文化財 小倉山蒔絵硯箱 一合 室町時代 15世紀 サントリー美術館



色絵龍田川文向付 尾形乾山 六口 江戸時代 18世紀 公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館

歌枕は実際の風景よりも、その土地を象徴する景物によって表わされてきた歴史があることから、デザイン化されやすい性質を持ち、多くの器物の意匠に取り込まれてきました。なかでも「書く」という行為で和歌にゆかりの深い硯箱において、歌枕由来のデザインは高度に発達し、数々の名品が伝えられています。そのほか家具や陶磁器、茶道具といった調度品から身にまとう染織品に至るまで、さまざまな分野の装飾に歌枕のデザインが用いられており、かつては身の回りに歌枕があふれていた様子がうかがえます。そして、それらのデザインの中には、現在でも目にすることのできるものも多いのではないでしょうか。

本章では、歌枕がデザインされた多種多様な工芸品を通して、かつて日本人の暮らしの中に歌枕が息づいていた様子を概観するとともに、和歌が身近な存在でなくなった今、再び歌枕の世界を共有することを試みます。

・重要文化財 小倉山蒔絵硯箱 一合 室町時代 15世紀 サントリー美術館

・ 鼡縮緬地淡路島文字入小袖 一領 江戸時代 18世紀 大阪歴史博物館

・吉野山蒔絵棚 一基 江戸時代 19世紀 東京国立博物館

・唐物文琳茶入 銘 吹上 一口 中国・元時代 14世紀 五島美術館

·吸坂燒武蔵野皿 五枚 肥前·有田 江戸時代 17世紀 北村美術館

【本展における展覧会関連プログラム】

◎講演会「歌枕の魅力―時空を超える"旅"」

講師:渡邉裕美子 氏(立正大学教授)

日時:2022年7月17日(日)14時~15時30分

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選。

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。 その他のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

◎夏休み特別イベント「まるごといちにち こどもびじゅつかん!」開催 詳細は6月下旬にお知らせします。

「歌枕 あなたの知らない心の風景」展

▼会 期:2022年6月29日(水)~8月28日(日)

※作品保護のため、会期中展示替を行います。

※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼主 催:サントリー美術館、朝日新聞社

▼協 賛:三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス

▼会 場:サントリー美術館

東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階

交通機関(東京ミッドタウンまで)

都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

▼開館時間:10時~18時

※金・土および7月17日(日)、8月10日(水)は20時まで開館

※いずれも入館は閉館の30分前まで

※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼休館 日:火曜日(ただし8月23日は18時まで開館)

▼入館料:

- · 当 日 券:一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
- ・前 売:一般1,300円、大学・高校生800円
 - ※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソン チケット、セブンチケットにて取扱
 - ※前売券の販売は展覧会開幕前日まで
- ※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

▼割 引:

・あとろ割:国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引 ※割引適用は一種類まで(他の割引との併用不可)

▼呈茶席 (お抹茶と季節のお菓子)

日 時:6月30日(木)、7月14日(木)・28日(木)、

8月11日 (木・祝)・25日 (木)

12時、13時、14時、15時にお点前を実施

(お点前の時間以外は入室不可)

会 場:6階茶室「玄鳥庵」 定員:各回12名/1日48名

呈茶券: 1,000円 (別途要入館料)

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売(予約不可、先着順で販売終了、お一人様 2枚まで)

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ: 03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト: suntory.jp/SMA/

▽プレスからのお問い合わせ:

サントリー美術館〔学芸〕柴橋 〔広報〕吉岡 https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

▽広報画像のお申込み:

「歌枕 あなたの知らない心の風景」広報事務局(株式会社ウインダム内)

〔担当〕橘川、多田

T E L : 0 3 - 3 6 3 9 - 0 7 2 1 E - m a i 1 : suntory-m@windam.co.jp

以 上